

2015年1月13日 (火) 産経新聞に掲載されました

キーワード キーパーソン

九州・山口総合

顧客ニーズに二人三脚で

ゼオライト かわむらきょうすけ 河村恭輔会長(80) かつみ 勝美社長(71)



ゼオライトの河村恭輔会長(右)と勝美社長

ゼオライト 現会長の河村恭輔氏が昭和44年に創業。工業用水などの水の浄化プラント事業を中心に、平成10年から逆浸透膜を使った浄水器やミネラルウォーターの販売を始めた。16年に河村氏の妻、勝美氏が社長に就任。東京、大阪、名古屋に3支店、大分、熊本など4営業所がある。従業員100人。本社所在地は福岡市博多区那珂5丁目1の11

「ゼオライト」(福岡市博多区)は、工場や病院といった工業用水の水処理プラントメーカーとして、全国展開している。河村恭輔会長(80)が昭和44年に創業して以来、妻の勝美社長(71)と二人三脚であらゆる顧客ニーズに応え、成長を続けている。

【河村会長】
「逆浸透膜」と呼ばれる網32件に達し、昨年11月、45日が一千万分の1の超微細膜を利用し、地下水や排水の水処理(浄水)プラント事業に取り組んでいます。創業以来、工業用の水道代が

東京や大阪に比べて4割程度も高い地域です。このままでは使えない地下水も、食品工場などで使用できるようにあります。大幅なコストカットができるのです。下水道も同様です。排水を浄化することで、再利用に加え、許可を取れば河川に流せるようになる。事業規模にもよりますが、上下水道のコストを3〜4割も抑えられ、お客さまには喜んでいただいています。企業のメリットばかりではありません。工場周辺の河川の水質も改善されており、環境保全にも寄与しているといえるでしょう。とはいえ、創業からしばらくは、こうしたメリットを理解していただけじゃなかった。そんな苦しい時代も、水処理の重要性、将来性を信じてきました。今では家庭でも飲料水を買

来、プラント導入件数は1232件に達し、昨年11月、45日が一千万分の1の超微細膜を利用し、地下水や排水の水処理(浄水)プラント事業に取り組んでいます。創業以来、工業用の水道代が

う習慣が広がり、企業も水質にこだわるようになりました。顧客が急激に増えたのは十数年前です。平成6年度には5億円程度だった売上高は、25年度は約28億円まで増えました。

【勝美社長】
事業規模拡大とともに、創業時数人だった社員は約100人に増えました。これから50年、100年と続けていくためには、ゼオライトの経営理念である「良い水創り、人財創り」をこれまで以上に徹底していく必要があります。技術力と人間力のバランスのとれた社員教育に力を入れています。世代交代も重要な課題です。これまで「家業」的な雰囲気だったことは否めず、これだけの規模になった以上は「企業」になる必要があります。技術力には一定の自信がありますが、また社内の体制がしっかりしているとはいえません。プラント事業は24時間体制の対応が欠かせない面もあり、社員の労務管理など見直しが必要でしょう。背伸びをし過ぎると、社員にも無理がかさんで、結果的にお客さまに迷惑をかけることになりかねません。今年はこれらの課題を解決する環境づくりに取り組みたいです(津田大資)

また、これは偶然ですが、平成23年3月の東日本大震災の当日、ある大学病院で、わが社のプラントが稼働を始めた。被災後、長期にわたって断水した地域もあったのですが、このプラントは無事動き続け、病院に水を供給しました。大変重宝していただきました。電力もそうですが、水も万一の事態に備えた「バックアップ」への意識が高まり、最近では病院への導入も目立っています。

これからの50年、100年と続けていくためには、ゼオライトの経営理念である「良い水創り、人財創り」をこれまで以上に徹底していく必要があります。技術力と人間力のバランスのとれた社員教育に力を入れています。世代交代も重要な課題です。これまで「家業」的な雰囲気だったことは否めず、これだけの規模になった以上は「企業」になる必要があります。

西部本部 九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局
TEL 083(234)7770
FAX 083(228)4855
yamaguchi@sankei.co.jp

〒750-0006
下関市南都町19-7
明治安田生命下関ビル6階

南九州支局
TEL 096(273)6855
FAX 096(324)2836

〒860-0804
熊本市中央区
辛島町6-7
辛島第一ビルディング7階

TEL 092(741)7115